

今後の進め方について

令和8年3月
政策統括官付

今後の進め方(普及展開策)について



分類	今年度の実施事項	次年度以降の方針
①データ整備・更新・オープンデータ化の運用のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> ・ほこナビDPの活用を前提とした、データ整備・更新・オープンデータ化の運用方針を示すガイドラインの改定(案)の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIを活用した取組であること等を踏まえ、技術動向や事例追加等によるアジャイル思考でのガイドラインの見直し
②データの利活用方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通オープンデータチャレンジ2025※1において歩行空間ネットワークデータの新たな利活用事例創出に向けたデータ公開を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほこナビDPの試行運用拡大 ・今年度に引き続き協議会等と連携しデータ利活用事例の創出に向けた対応を実施
③国による技術支援のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体向けの講習プログラムの作成、運用方針を示すガイドライン(案)とマニュアルの提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地実証等による伴走型支援の実施 ・教育機関等向けの講習プログラムの検討
④普及展開に向けた事例拡大のための戦略について	<ul style="list-style-type: none"> ・G空間EXPO※2において来訪者アンケートを実施し、人流も考慮した移動支援サービスへのニーズが高いという結果。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの事例において優先して検討できるよう取組を推進

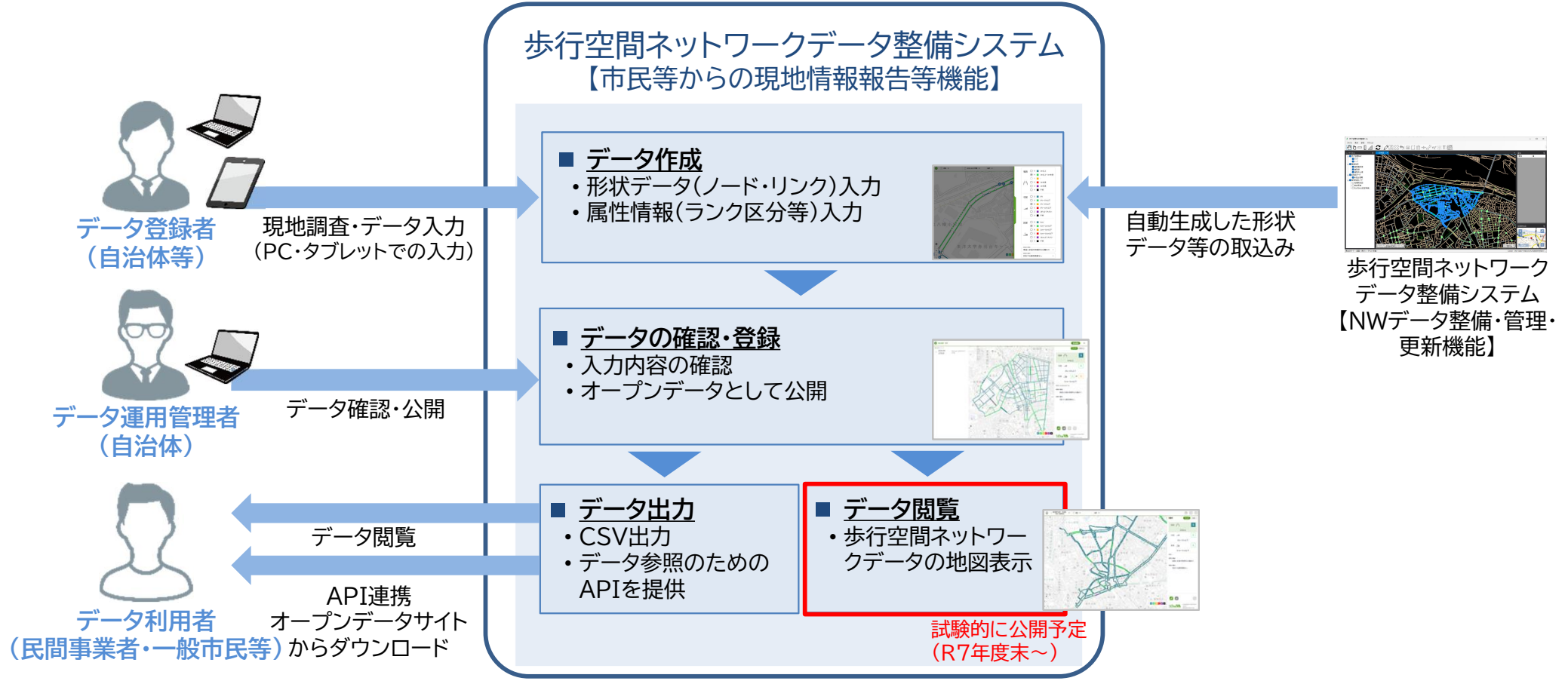
※1 2025年7月1日より公共交通オープンデータ協議会(会長:坂村健 東京大学名誉教授)と国土交通省にて「公共交通オープンデータチャレンジ2025~powered by Project LINKS~」として開催された、公共交通オープンデータを含めた様々なデータを最大限に活用した、地方での課題解決 や新しいデータの利活用につながるアプリケーションやサービスを募集するもの。

※2 2026年1月28日~1月30日に東京ビッグサイトで開催された、地理空間情報高度活用社会(G空間社会)の実現へ向けて、産学官が連携し、地理空間情報と衛星測位の利活用を推進する場として開催されるイベント。



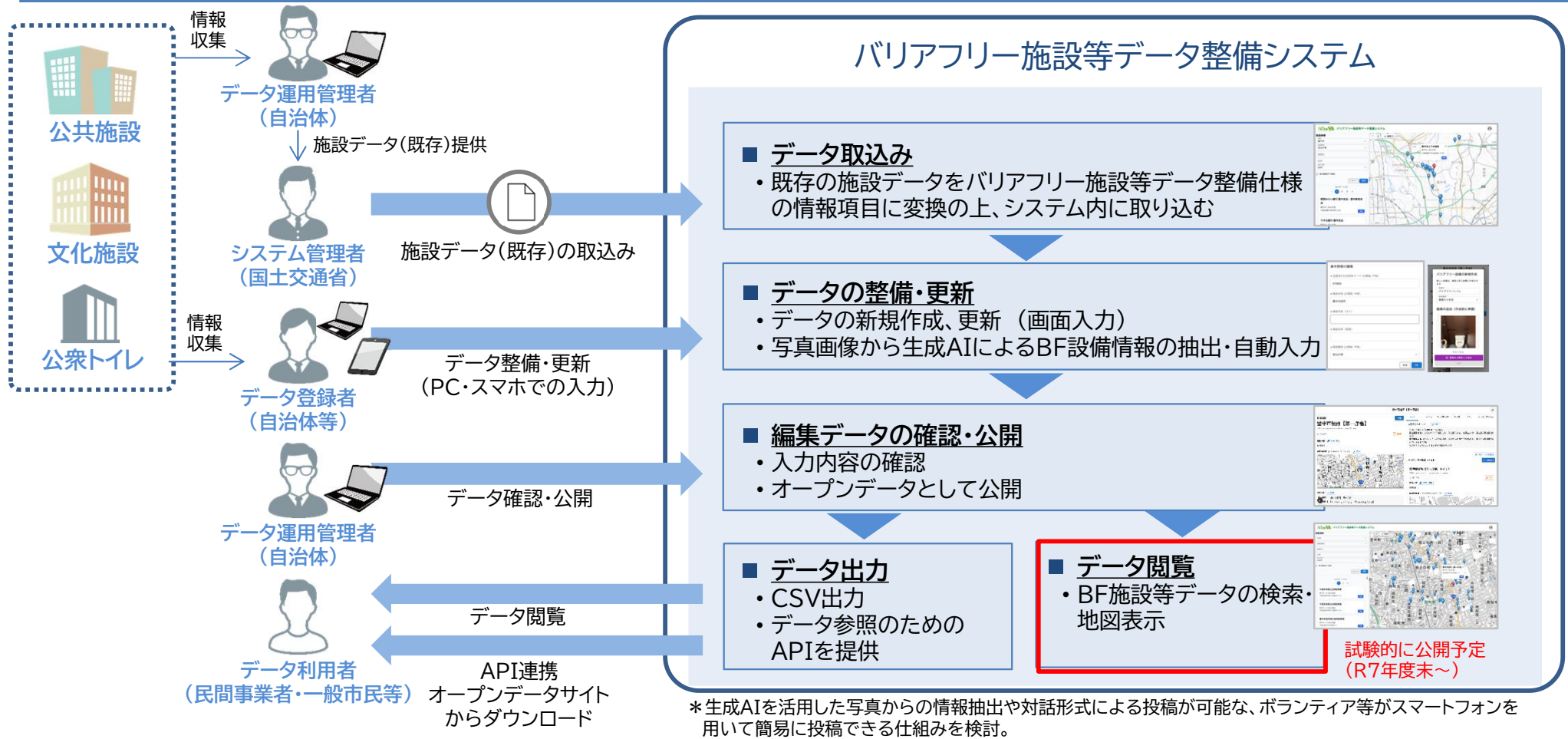
○歩行空間ネットワークデータ整備システムについては、今年度現地実証等で整備した赤羽駅周辺の歩行空間ネットワークデータとともに、今年度内にデータ閲覧機能の試験的な公開を実施予定。
○ランク区分等を編集する機能や形状データ整備機能については、次年度の準備が整ったタイミングで試行運用を実施予定。

歩行空間ネットワークデータ整備システム 全体イメージ 【市民等からの現地情報報告等機能】



○バリアフリー施設等データ整備システムについては、今年度現地実証等で整備した大阪府豊中市・池田市のバリアフリー施設等データと東京都のオープンデータであるバリアフリーストレデータとともに、今年度内にデータ閲覧機能の試験的な公開を実施予定。
○AIによる画像解析によるバリアフリー施設等を編集する機能については、次年度の準備が整ったタイミングで試行的な利用が出来るよう対応する予定。

バリアフリー施設等データ整備システム 全体イメージ



○G空間EXPOで本施策ブースに訪問して頂いた方に対し、どんな移動支援サービスがあったら良いと考えるのかについてアンケートを実施。
 ○アンケートの結果、「人流も考慮したバリアフリールート案内」の移動支援サービスが全体の約3割と最もニーズが高くなった。

移動支援サービスの選択肢

①自動配送ロボットによる宅配サービス

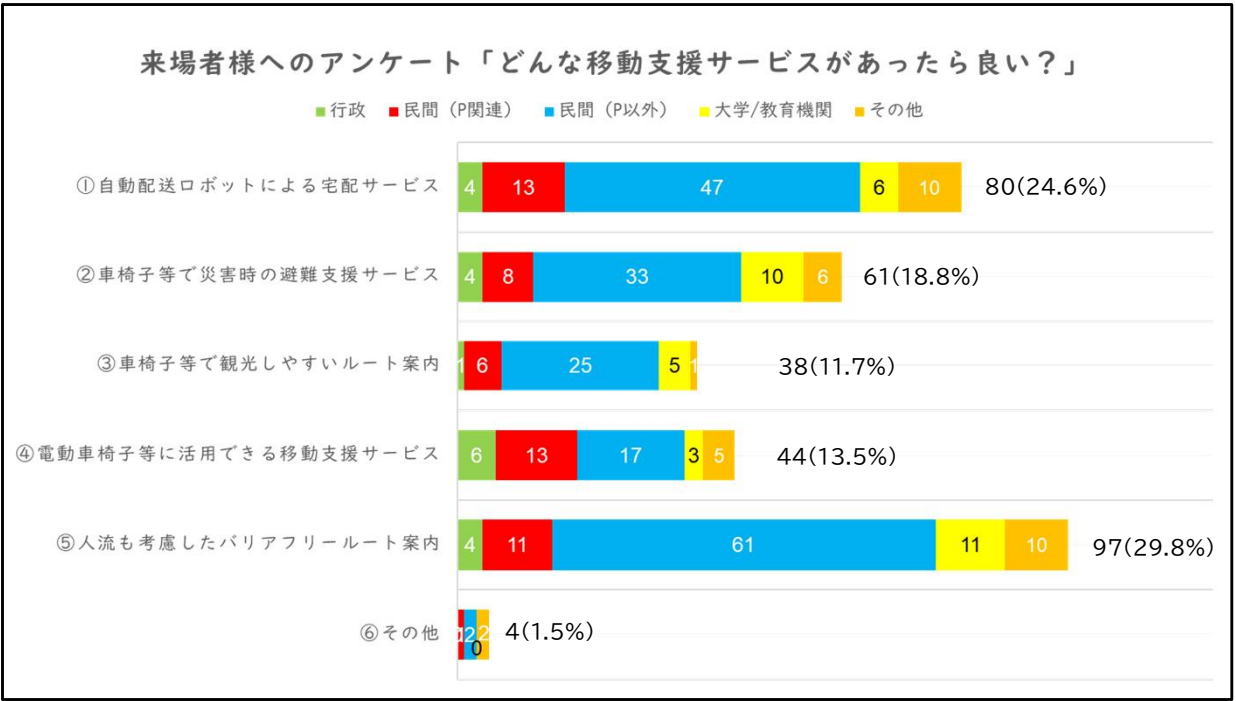
②車椅子等で災害時の避難支援サービス

③車椅子等で観光しやすいルート案内

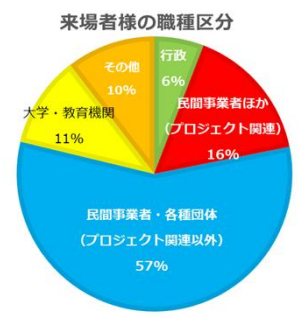
④電動車椅子等に活用できる移動支援サービス

⑤人流も考慮したバリアフリールート案内

⑥その他



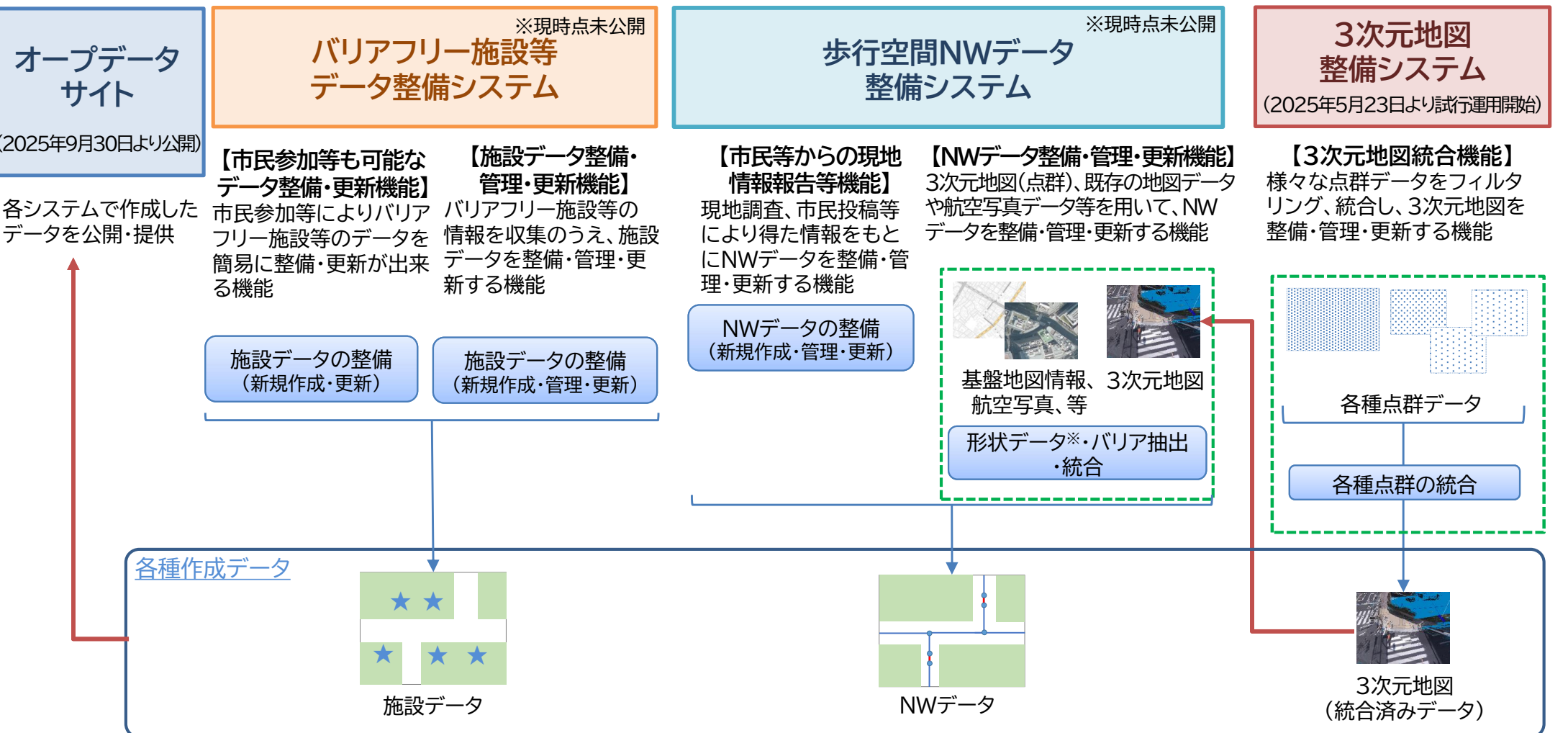
色分類	区分	区分説明
1 緑	行政	
2 赤	民間 (P関連)	民間事業者・各種団体・プロジェクト関連 (ロボット/移動支援/障害者支援)
3 青	民間 (P以外)	民間事業者・各種団体・プロジェクト関連以外 (2以外)
4 黄	大学/教育機関	
5 オレンジ	その他	一般来場者等



【参考】歩行空間ナビゲーションデータプラットフォーム(ほこナビDP)の機能



- ほこナビDPは、歩行空間における移動支援サービスの普及・高度化を促進するため、歩行空間NWデータの効率的な整備・管理・更新や自動配送ロボット等の走行に活用できる3次元地図の統合処理、バリアフリー施設等データの整備・管理・更新の効率化のための機能を持つシステム（現行版はプロトタイプ）。
- 整備された各種データは国土交通省HPのオープンデータサイトで公開。
- 今後、自治体等への支援ツールとして広く活用していただくため、試行利用の場を増やし、継続的に操作性や機能性の改善を図る。



プログラム処理でデータを作成の上、必要に応じて手動操作によるデータの編集を実施する。

※バリア情報を含まない歩行空間のネットワークデータ



項目	課題	着手状況・今後の方針
(1)データ整備・更新の効率化	バックパック型やドローン搭載型のレーザースキャナなどを活用してより効率的にデータを取得したり、歩行空間ネットワークデータやバリア情報を自動生成したりするなど、作業の効率化を図るための技術検討	<ul style="list-style-type: none"> • ほこナビDPの機能として、「3次元地図統合機能」、「NW(ネットワーク)データ整備・管理・更新機能」のプロトタイプを構築。 • WGにおける議論や実証を経て、普及展開が可能な技術を整理。 • 「3次元地図統合機能」はR7.5より試行運用開始、「NW(ネットワーク)データ整備・管理・更新機能」は次年度の試行運用開始に向け準備中。
	道路管理などで取得・整備した3次元点群データの活用	
	他プラットフォームとの連携可能性の検討	<ul style="list-style-type: none"> • R8.3より国土交通データプラットフォームとの連携を開始。
	行政だけでなく、市民参加などによるデータ更新の仕組みを実施できるようにするための検討	<ul style="list-style-type: none"> • ほこナビDPの機能として、市民等からの現地情報の提供によりNWデータの効率的な更新が可能となる「市民等による情報報告等機能」のプロトタイプを構築。 • ほこナビDPの機能として、「市民参加等も可能なデータ整備・更新機能」のプロトタイプを構築。 • 「市民参加等も可能なデータ整備・更新機能」の次年度の試行運用開始に向け準備中。

【参考】取り組むべき施策(第5章)の着手状況と今後の方針



項目	課題	着手状況・今後の方針
(2)オープンデータ化のさらなる促進	国土交通省で整備した「歩行者移動支援サービスに関するデータサイト」の機能性・操作性の改善	<ul style="list-style-type: none"> データ閲覧機能、検索機能、経路検索機能を新たに追加。
	データの整備・更新と利活用を容易に行うことが可能なデジタル基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ほこナビDPの各機能のプロトタイプを構築。
	施設管理やバリアフリーマップ作成と、本施策に必要なデータや作業との統一化などの工夫や仕組みの検討	<ul style="list-style-type: none"> ほこナビDPの機能として、「施設データ整備・管理・更新機能」のプロトタイプを構築。 バリアフリー施設データの標準フォーマットを検討中。 ほこナビDPの機能として、「市民参加等も可能なデータ整備・更新機能」のプロトタイプを構築(再掲)。 WGでの議論や実証等を踏まえ、本格運用を目指す。



項目	課題	着手状況・今後の方針
(3)新たなニーズへの対応	簡易的にデータ整備が行えることも考慮しつつ、利用者ニーズに合わせた柔軟なバリア選択を可能としたり、視認性向上のための画像データを追加したりするなどのデータ整備仕様の改善検討	<ul style="list-style-type: none"> 自動走行ロボットや電動車椅子等を新たな利用対象として想定した歩行空間ネットワークデータ整備仕様に改定済み。 バリアフリー施設等データについては、写真が追加できる標準フォーマットを検討中。
	パーソナルモビリティと自動走行ロボットの双方の移動に活用できる3次元点群データの精度などのあり方やデータ共有の方法などの検討	<ul style="list-style-type: none"> SLAM技術を活用したモビリティの移動に活用できる3次元点群データの要件を整理済み。
	3次元点群データの活用を視野に入れた、視覚障害者向けサービスに必要なデータ仕様などの検討	<ul style="list-style-type: none"> 現在検討中の仕様改定の後に、視覚障害者向けサービスのためのデータ仕様の方針等の調査・検討を予定。
	ロボットによるエレベータ制御や、ロボット遠隔監視業務への障害者の就労支援などについて、関係者の検討に資する基礎材料となる関連情報の収集や提供	<ul style="list-style-type: none"> 過年度実施した実証実験の結果をとりまとめ済み。今後も引き続き、関連情報の収集等を実施。
	個別避難計画の作成など、障害者向け避難支援サービスなどの提供に向け、ハザードマップなどとの連携を想定した歩行空間ネットワークデータの整備や避難所の位置情報などの関連データのオープンデータ化の検討	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の位置情報等のデータの整備状況や歩行空間NWデータの適用可能性等について、関係部局へのヒアリングや調査を実施中。

【参考】取り組むべき施策(第5章)の着手状況と今後の方針



項目	課題	着手状況・今後の方針
(4)認知度や訴求力、実行力の向上	データ整備主体・利用主体ともに認知度を向上させるため、講習会や広報などの周知活動	<ul style="list-style-type: none"> 歩行空間DX研究会を通じ、年間を通じたSNS等による情報発信の他、シンポジウムを継続的に開催中(全3回開催済み)。
	関係者間での情報共有のため、国・自治体や民間事業者、障害者団体などの関係者が集まり、自由に意見交換や問題提起、課題共有などができる場の構築	<ul style="list-style-type: none"> 上記に加え、国・自治体や民間事業者、障害者団体等の関係者で構成する2つの技術検討のためのWGを設立。 普及展開フェーズへの移行に伴い、WG体制の見直しを実施。
	関心の高い自治体における実証事業や、大規模な集客が見込まれるイベントのタイミングでの実績づくり	<ul style="list-style-type: none"> 各WGにおいて関心の高い自治体で実証を実施し、検討へ反映。 現在検討中の仕様改定やほこナビDP機能等がある程度形になった段階で、関心の高い自治体における実証事業や大規模な集客が見込まれるイベントのタイミングでの実証事業等も検討。
(5)進捗状況の把握などによる効果的な取組の推進	取組の進捗状況を定期的に把握し、必要に応じて課題分析や追加対策を講じるなどして効果的に取組を推進	<ul style="list-style-type: none"> 現在検討中の仕様改定やほこナビDP機能等がある程度形になり、本格運用と横展開を図っていくにあたり実施していく方針。
	進捗状況を把握可能な指標の開発も視野に	<ul style="list-style-type: none"> 現在検討中の仕様改定やほこナビDP機能等がある程度形になり、本格運用と横展開を図っていく段階に向けて検討を実施。